

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市産業振興会議
開 催 日 時	令和元年10月28日(木) 午前・午後 3時00分から 午前・午後 4時50分まで
開 催 場 所	吉川市役所 204会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 鈴木 努、生田 孝之、近藤 旭、柏瀬 浩史、太田 久年、 田口 政博、石田 宏記、山崎 守 (産業振興部長) 【委員以外の出席者】 丸尾 達 (千葉大学大学院教授) ※オブザーバー
欠席委員(者)氏名	染谷 直志、程田 幸秀、蓮見 良平
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課 課長 櫻井 敬雄 商工課 課長補佐兼商工観光係長 深堀 邦彦 商工課 消費労政係長 木村 みのり
会議次第と会議の公開又は非公開の別	○第1回吉川市産業振興会議 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 委員及び事務局の紹介 5. 議題 (公開) (1) 千葉大学大学院教授 丸尾 達 氏の講話 (2) 異業種交流会について (3) 経済的困難な生徒への支援について (4) その他 6. 閉会
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0人
会議資料の名称	次第 資料1 吉川市農業の新展開に関する提言 資料2 昨年度産業フェアチラシ 資料3 進学に係る補助制度について

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	近藤 旭、柏瀬 浩史
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>○第1回吉川市産業振興会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 委員及び事務局の紹介 <p>太田会長より、会議録確認指定者として近藤委員、柏瀬委員を指名。各委員了承。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 議事(公開) <ol style="list-style-type: none"> (1) 千葉大学大学院教授 丸尾 達 氏の講話 資料1及びプロジェクターを使用しての講話
委員	植物工場で作った野菜の味は。
教授	畑で作るよりもおいしくなる。
委員	いろいろな地権者の土地をどうまとめるのか。
教授	常総市では、現在スマートインターのところの道の駅を兼ねた農業用施設を作っているが、民間が中心に動いている。吉川市は常総市よりも土地が細分化されている現状があるため、吉川市特有のやり方を考える必要がある。いきなり大規模にやるのは難しいので、数ヘクター

	<p>ル規模でモデルの事案を示すことで、農業者も具体的なものが見えることにより早く進むと考える。うまくいくかどうかわからない状態では農業者も投資出来ない。確実に収益が出ることを見せることで意欲がわいてくる。</p>
委員	<p>農地は購入するのと借りるのではどちらがいいか。私は借りる方がいいと思っているが。</p>
教授	<p>どちらでもいいが、購入の方が難しいだろう。</p>
委員	<p>例えば10人まとまったところを借りて、地権者には工場でも働いてもらい、賃料も払うというサイクルで考える。</p>
教授	<p>広い水田は残して機械化して人手を減らす。空いた人手で一年中収入が得られるような施設園芸を作り、両立していく方法が可能性として高い。</p> <p>現在自分では農業が出来ないため、人に任せている場所が多いが、それも数が増えれば出来なくなる。点的に農地が荒れていくという状況が日本各地で出てくるようになることが予想されるが、そうなる前に手を打たないといけない。</p> <p>山梨県では農地バンクというものがある。何筆もある農地を数ヘクタールまとめて造成し貸し出すという方法。甲府市や北杜市など山梨県は積極的にやっている。</p>
市長	<p>規模が大きくななくても、千葉大にあるような規模の施設を若手農業者などが共同出資して建てて、収益を上げるという方法はどうか。</p>
教授	<p>十分考えられる。</p>
市長	<p>農協とはどのようなかわりを取ればいいのか。</p>

教授	<p>農協も危機感を持っているので、施設園芸に積極的になっている。国の補助も受けられるので、農協も巻き込みながら進めるのがよい。</p>
委員	<p>他市の進まなかった事例では、その原因はどこにあったのか。販路、需要、農業者の消極性など理由があると思うが。</p>
教授	<p>現在の農業から新しい施設園芸などに踏み切れなかったということが大きな理由。それから市側にも原因があった。千葉大学としては依頼を受けて提案をしたが動こうとしなかった。計画は廃校となる高校跡地を利用して施設園芸をするもので、需要としても十分やっていける内容であった。</p>
委員	<p>吉川市で道の駅の構想があるようだが、ネギと米だけでは足を運ぼうとは思わない。地産地消の農作物でどの程度を取り揃えることができるのか。</p>
委員（部長）	<p>吉川市は野菜の種類は多い方。まとまった量を提供できるかが課題。近隣でも道の駅の構想がある中、農業パーク構想も踏まえながら考えていきたい。野菜の販売所とレストランだけではなく、併設して植物工場のモデルやなまず養殖場、それらの加工場も設置して加工品を道の駅で食べたり買ったりできるなどをイメージしている。</p>
教授	<p>観光農園は集客力がある。11月から5月はいちご、6月から10月はラズベリー・ブルーベリーなど一年中収穫でき、吉川に行けば何かがいいものがあるという形になれば、リピーターも来て集客できる。</p>
委員	<p>昨今台風被害が全国各地で起こっているが、観光農園で使用するビニールハウスやガラスハウスは強度的に大丈夫か。</p>

教授	千葉大にあるものは風速50mまで耐える。万が一のために保険もかけている。
市長	実際に植物工場のモデルを建てて、収益が出るところを見せないと伝わらない。
教授	現在は、野菜も業務用やスーパーで売っているものはカット野菜など加工されたものが圧倒的に多いので、野菜加工工場という視点で考える方法もある。
市長	1つは農家の人が確実に収益を得られるような植物工場のチャレンジを行政がバックアップすること、2つ目は道の駅で観光の名所となる一年中提供できるような果実系のハウスを作るという2本立てで考えていきたい。
委員	道の駅は吉川市近隣にはない。穴場では。
市長	八潮市、松伏町で構想がある。
委員（部長）	越谷市、三郷市でも構想があり、三郷市は新橋のおりてきたところ、越谷は東埼玉資源環境組合そばのイチゴ農園のところ。
教授	越谷は当初、東埼玉資源環境組合の余熱でやりたいという話だった。
委員	これまでの植物工場のお話を聞いていると、農業というよりも製造業に近い発想。農業者が工場を建てて生産していくことになる。経営のプロや製造業のプロに参画してもらう必要があるのでは
委員（部長）	発想の転換が必要。

教授	<p>畑は工場にすれば均一化出来て、一粒まきで自動収穫と無駄のない製品が出来るため、植物工場は非常に有効。少力化を念頭に開発してきた日本の技術は世界でもトップレベル。特に軟弱野菜で鮮度が優先されるものは植物工場が圧倒的に有利。</p>
市長	<p>青年農業者と千葉大学を視察に行った際、みんな興味を持ってはいたが、いきなり3千万、4千万の投資をするとなると大きな決断が必要。行政がバックアップして独り立ちさせていけば、増えていきそうな予感がある。</p>
委員	<p>農業者だけでは難しい。土地に執着もある。そこに工場を建てて自分も働いて給料もらうという発想がない。発想の転換のカギはいい野菜ができるかどうか、儲かるかどうかそこが大事。</p>
市長	<p>(2) 異業種交流会について 昨年まで行っていた産業フェアを2020年は2月に異業種交流会、11月の市民まつりにアワードなどを入れた産業フェアとして二本立てで行いたいと考えている。そして2021年からは11月の市民まつりの一本に移行させてもっと多くの方に見ていただける催しにしたい。</p>
委員	<p>商工祭りと内容が被らないか。</p>
委員 (部長)	<p>商工祭りは商工会が中心となった物販が主なので内容は被らない。2月の異業種交流会は農業者に多く参加いただき、6次産業化を考えていきたい。</p>
市長	<p>市民まつりの方が集まっている中でアワードの表彰などをやりたい</p>

と思っている。この内容を紙にまとめたものをもとに次回を年内に開催し話していきたい。

6. 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和元年11月29日

署名委員 近藤 旭（自署）

署名委員 柏瀬浩史（自署）